

年度初めのご挨拶

院長 小原 眞



新年度を迎え、当院もまた新しいスタートを切りました。昨シーズンの雪はかなり少なく、病院前の残雪が消えるのは例年では5月下旬ですが、今年は5月5日と異例の早さでの雪解けでした。毎年楽しみにしている山菜採りも、今年はだいぶ早く開始し、あっという間に新緑が眩しい風景となりました。

昨年着任した熊谷和也先生は諸事情により3月末にて異動されました。熊谷先生には、心臓血管外科での経験・知識を活かし、循環器を中心とした幅広い診療で多大な貢献をしていただきました。熊谷先生には改めて感謝を申し上げたいと思います。

この4月からは石亀慎也先生が着任し、早くも多くの仕事・診療に携わっています。石亀先生は自治医大卒業で、義務履行に伴う派遣ではありますが、もともと総合診療を専攻し地域での診療を得意としており、のびのびと診療を行ってくれています。我々が彼から得る知識も数多くあり、病院全体が良い刺激となっています。私もかつては自治医大の義務履行で旧沢内病院へ派遣となり（1996年～1999年）、緊張しながらも楽しい日々を過ごしました。その頃を思い出しながら、石亀先生にも良い経験を積んでもらいたいと思っています。

先日、岩手医大の学生さん（6年生）が総合診療の実習のため来院し、2週間弱のスケジュールで滞在しました。実習後の報告の中に、以下のような記述がありましたのでご紹介します。

最も印象に残っていることは、患者さんやご家族の方々との会話、病院スタッフ同士の会話を大切にされていることです。患者さんやご家族の考え方・価値観を汲み取るために、意見を交換するカンファレンスの時間を設けるだけでなく、診療中、廊下ですれ違った時、訪問診療・訪問看護・訪問リハの時など何気ない会話の中で共有する。これを日常診療の中で実践されていることによって患者さんやご家族の背景までを含めて診るという全人的医療がチームとして行えていると感じました。また積極的に挨拶や会話をすることで病院全体の雰囲気は温かく、活気に溢れており、スタッフの方々の雰囲気の良さが患者さんにも反映され、安心して過ごされているように感じました。

学生さんとは言え、外部からの目線でこのような良い評価をいただき、改めて当院の特色を確認することができました。そして、より良い病院にしていくため決意を新たにしました次第です。

今後もこの診療体制を維持しつつ、地域住民の皆様のためにも更なる充実を図っていきたいと考えています。そのためには関連する医療機関、介護福祉施設等の皆様のご理解とご協力が不可欠です。今後ともどうかよろしくお願い致します。

新内科医師の紹介

内科医長 石亀 慎也（いしがめ しんや）

令和5年4月から西和賀さわうち病院内科医長に赴任しました石亀慎也と申します。盛岡出身で自治医科大学を卒業し、岩手県立中部病院で研修を修了後、総合診療専攻医として現在に至ります。総合診療科はあまり馴染みがないかもしれませんが、「疾患」そのものだけではなくその人の生活の背景までを考えた「病いを診る」医療を目指しています。医療者の健康や組織開発にも力を入れたいと考えており、地域医療を盛り上げていく存在になれるよう日々教育活動にも邁進中です。



ちょっとした相談事でも構いません、是非見かけたらお声をかけてください！何卒よろしくお願いいたします。

今年も研修医がやってきました。

総括院長 北村 道彦

トップバッターは盛岡市立病院の津島太陽（たかひろ）先生です。薬剤師として社会人経験があり、落ち着いた雰囲気の中、朝早くから積極的に病院内を走り回って大活躍しています。特に救急搬送が多く、1カ月で10名の救急車同乗を担ってくれ、大助かりです。今年度は、盛岡市立病院から2名、岩手県立中部病院から4名、北上済生会病院から1名と、初めて3病院から、総勢7名の研修医を受け入れることになります。研修医が来ると病院に活気が出ます。看護科やクラークさんの全面協力のもと、タイトなスケジュールの中で、参加型の研修を行い、「出来る研修医」に成長してもらうよう、病院を挙げて取り組んでいます。西和賀町ならではの、山菜取りやキノコ採りなど、課外活動も充実しています。



「教育は共育」を合言葉に楽しく充実した時間を共有したいと考えています。

それぞれの基幹病院の指導医の先生方は、さわうち病院帰りの研修医の診療などの行動を観察し、「出来る研修医」に成長しているか評価してください。自信はありますが、少しドキドキするお願いです。（写真は町内の健康講演会で津島研修医が講義している時の緊張気味のスナップです。）

主査 藤田 智恵

らをひあ 変患町の料はまメまさを回養 しし芽日期も西季
と楽西り皆喜者外方理わすん設郷科さた。てを知を山和節新
し和まさばさかはがらぐ。へけ土で、家頂人迎菜賀に緑
ん賀しんれんかも多び、1日提て食は、族きかえの町な
で町たもてかおちく等こはに供入料、当で天ら、豊でり
頂のら機いら越ろ、のれ異よし院理毎院食ぶタ私富はまぶ
け山、会まもしん高山かなって患の月のべらうもな今し
た菜ぜがす。大の、齢菜らりてい者日一栄まにの先時年たい

編集後記